

# 温暖化で高知の漁業はどう変わる？

## ■アワビやトコブシ、サザエなど藻食性の貝類が獲れなくなる

高水温によって磯焼けが広がると、海藻を食べて育つアワビやトコブシ（ナガレコ）などのアワビ類、サザエ



▲資源の減少が著しいアワビ・サザエ

などの巻貝類がいなくなります。すでに高知県では1998年の高水温年以降、アワビやサザエは市場に流通するほどの水揚げがなくなってしまい、漁獲量は減少の一途をたどっています。

## ■回遊魚の漁場が変わる

カツオやマグロ、スルメイカ（松イカ）など、広い海を回遊している魚種の多くは、海水温を目安に移動しています。そのため、温暖化により水温分布が変化すると魚群の移動経路や漁場の位置が変わり、沿岸漁業に大きな影響を与えます。



高知沖で水揚げされたカツオ ▶

## ■魚のサイズが小さくなる

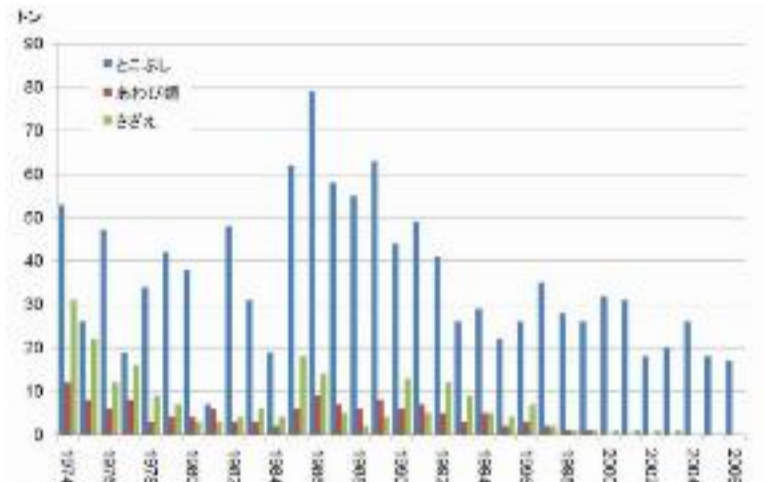
一般に生き物は暖かいところで育つと成長が速くなり、小さなサイズで成熟するようになります。そのため、海水温が高くなると漁獲対象種の魚体サイズが小型化する懸念があります。

## ■獲れる魚の種類が変わる

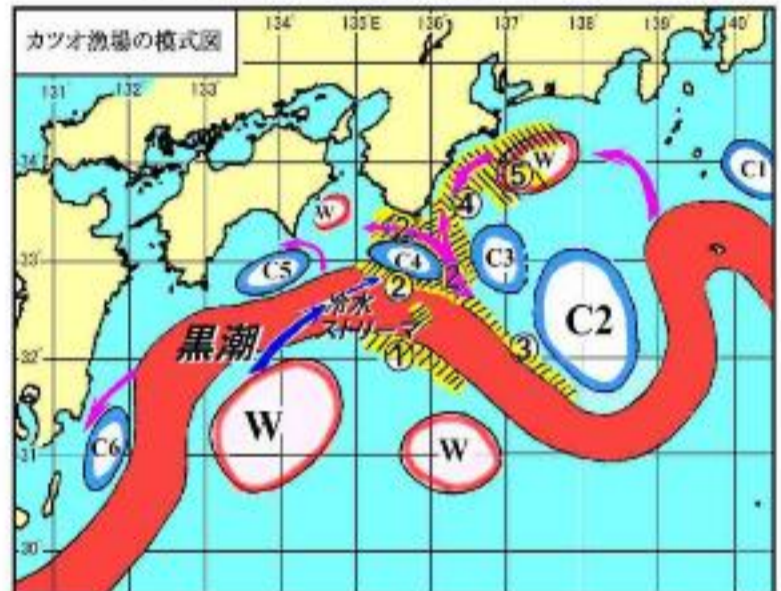
水温が高くなると、定着性の生き物はこれまでよりも暖かい海に生息する種類に変化します。これはサンゴや海藻に限らず魚類にも当てはまります。海の温暖化が進むとマダイなどの温帯性魚種の漁獲が減り、替わってハタ科やフエダイ科、イトヨリダイ科、フエフキダイ科など亜熱帯性の魚種が増加すると予測されます。



▲亜熱帯性海域の漁獲対象魚種



高知県におけるとこぶし、あわび類、さざえの漁獲量の推移  
農林水産省 農林水産の統計データを使用

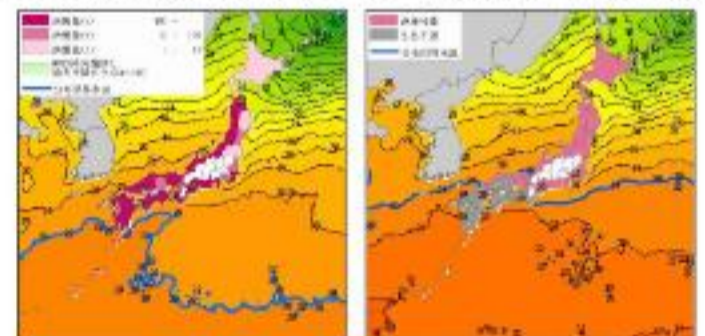


衛星画像からみたカツオ漁場の模式図

黄色の斜線部がカツオ漁場 (①~⑤) Wは暖水渦 C1~C6は冷水渦  
和歌山県農林水産総合技術センター平成14年度研究成果選集より

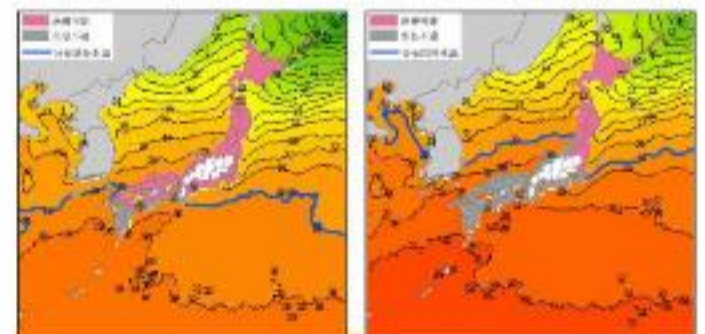
## 温暖化によるマダイの生息域の変化

マダイは海面水温が29℃（マダイの生息水深では27℃）より高い海域には生息しないため、四国では8月の水温が現在より1℃高くなるだけでマダイは獲れなくなります。



現状

50年後予測 (現状+1.4℃)



30年後予測 (現状+1℃)

100年後予測 (現状+2.9℃)

温暖化によるマダイ生息域の変化予測図 (8月)

青線はマダイが生息できる南限を示す

(独) 水産総合研究センター資料より